

国頭地区算数ブロック型授業研究会

主題：思考力、判断力、表現力を育てる指導とその評価方法等の工夫改善
サブテーマ：課題設定の工夫による授業実践

【教育指導力向上事業地区別ブロック型研究事業の趣旨】

本県の児童生徒の学力向上に関わる課題への対応として、学習内容の習熟に応じた指導の充実を図ることを目的とし、近隣校の教諭による研究会（ブロック研）を組織し、学校や地域の実態に応じた指導方法の工夫改善について実践的な研究を行うことにより本県の児童生徒の学力向上に資する。

〔研究授業〕

(1) 単元名： 分数÷分数

(2) 本時の目標： 分数で割ることの意味を理解し、計算することができる。

これまで、何度かE先生の授業を紹介してきた（RシートNo.73、81）。特に少人数指導教室（マナビー教室）における、学習環境づくりやノート指導には感心させられてきた。「学び」の授業においては課題設定が抜群によく、子ども達に学び合う必然性を提供してきた。

本時は分数÷分数の一般的な計算の仕方でも、割る数を1にする計算の仕方を理解するところである。分数の割り算で、なぜ割る数を逆数にしてかけ算になるか？その意味と理解、技能の習得を目指す。

国頭地区算数ブロック研究会の趣旨と主題にせまる授業研究会である。



(時間は時刻)

1:50 淡々と授業が始まる。前時のレベル問題をあっさり共有し本時の課題に入る。「くどくない」がいい！



児童：1dあたりの面積を求めると式は割り算になります。

子どもたちは教師の言葉と黒板に集中する。教師は端的な発問で子ども達の声の拾い板書を進めていく。発問のレベルに子ども達への配慮が伺える。今日参加した研究員達には、発問が向けられた児童への意図がおそらく見えない…



2:00 課題文から割り算になることを予想し、関係図に示していく。→ 立式する。

教師の問答のうまさ光る。まず、余計な言葉が全くなく算数的用語を使って理路整然と進める。何よりも良かったのは、肝心なところはすべて子どもの声で埋めていったことである。

写真①、書き始めから写真③まで3分弱である。さてこの時間を短いとみるか長いとみるかである。…当然、授業者はこの後のプランを念頭に置いての進行である。(子ども達にあずけてみるのもありである。)



2:05 本時のめあて板書
教師にもそれぞれ授業者
の学習スタイルである。



教師の「磨かれた言葉」がある。教えながら考えさせる・考えさせながら教える。確かめながら教える等、教師の言葉に無駄がないので、子ども達も聞き取りやすく。思考の課程が言葉によって邪魔されることはがない。

いわゆる「分かりやすい」授業なのである。

さらに、問答の中で問のレベルに応じて、弱い子ども達を学習参加へ促している見えない配慮がある。

一方的に聞かされている状況でないことに子ども達が救われている。



【学習規律の徹底】 『「確かな学力の向上」支援プラン』改訂版より

平成 25 年県より発刊された「分かる授業 SuppOrt Guide」の P19～20 に学習規律指導の取り組み事例が記されている。P19 より、学習規律は、学級集団のなかに自然発生的に確立されるものではない。意図的・計画的に教師が指導することが必要である。学習規律を身につけさせる初期には、望ましい学習規律を教師が示して（率先垂範）守らせる。さらに P20 の事例には「徹底」という言葉が目につく。徹底しなければ定着が難しいものであるものとする。

E 先生は、日常的に学習態度、学習中の会話（算数的用語の活用）、授業者としての板書のあり方や、子ども達のノートの取り方にその徹底さがうかがえる。「書くときは書く」「聴くときは聴く」「考える時は考える」教師の明確な指示や言葉が、子ども達を「分かりやすく」よりよい理解へ導く。

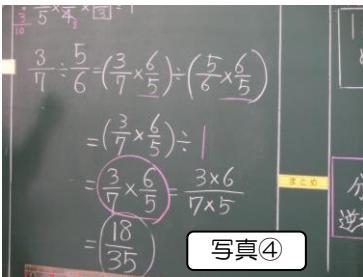
「学び合う教室」においても学習環境（教室の保清）や、学習規律がいきとどいていない状況では、深い思考や他者の話を「聴く」に心が向けられない。授業スキルの前に、学校や教室のルール、学習規律の大切さをみんなで共通理解し、実践の必要性を感じてほしい。特に中学校においては教科担任制である、一部の教師の実践だけでは授業も生徒も教室も学校も変えられない。学習規律確立のキは『共通実践』となる。

2:14 最初の練習問題である。授業者：「先ほどまでのやり方を参考に 2 分以内でやってみてください。」声がかかる。子ども達は板書やノートを振り返り確認しながら自力で進めていく。

2:17 写真④、解答する。端的にただ書くのではなくて、教師は子ども達の声で語らせて「確認しながら考えさせる」ことを心がけている。

写真⑥、3 つ目の問題の解答は子どもにあずけた。

2:27 最終、プリントをやる。「分かったか？」確かめである。



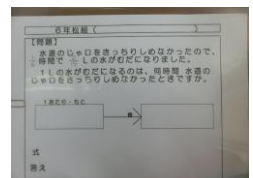
写真④



写真⑤



写真⑥



【授業者の研究授業報告レポートより抜粋】

1. テーマについて取り入れたい点…「思考力,判断力,表現力の育成」
 - ① 「関係図や数直線を活用した立式（板書計画）」とある。→ 思考過程の支援、思考ツールの提供
 - ② 板書と連動したノート指導 → 思考過程の見える板書（教師）とノート（児童）
 - ③ 発問のタイミング → 【改善点】：児童の言葉を積極的に取り入れるよう検討
2. サブテーマについて…「課題設定の工夫」
 - ① 関連するテスト等の結果を分析した課題設定。→ 児童の実態に合わせた課題レベルの提供。
 - ② 授業終末の練習問題にもレベル的な段階を意識した問題を提供する。
3. 校内で波及したいこと
 - ① 週案等を活用して担任と連携し、実態に応じた課題設定を心がける。
 - ② 指導と評価の一体化を図るため、目標やめあてを明確にし、何をもって「できた」「できる」とするか、評価規準や判断基準を明確にし担任と共有する。

どうですかこのレポート？…教師としての自己の職責へのポリシーまで感じてきます。

E 先生お疲れさんでした。見事！です。まず感心するのはやはり学習規律の定着ですね。先生のこれまでの授業づくりやこだわりが、十分子ども達の態度に表れているのではないかと思います。感謝します。

国頭学びの会ゆい